江戸時代の交通　P. 206～

陸上交通

1．五街道［図表P. 184］

☆江戸1＿＿＿＿＿＿を起点。**道中奉行**が管理。約4kmごとに**一里塚**を築く。

＊**東海道**…江戸と京都・大坂を結ぶ最重要街道。53（または57）の宿駅（宿場）がある。

＊2＿＿＿＿＿＿…江戸を出て草津で東海道と合流する。**67宿**が置かれた（最も多い）。

＊3＿＿＿＿＿＿…**下諏訪**で中山道と合流する。

＊**日光道中**…**宇都宮**までは奥州道中と重複。日光東照宮参詣用に整備された。

＊**奥州道中**…宇都宮で日光道中と分かれたのち、**白河**に至る。

※五街道以外の幹線道路は4＿＿＿＿＿＿（**脇往還**）とよばれ、商業用通行路として重要であった。
信濃－越後間の北国街道、大坂－下関の中国路（山陽道）、伊勢神宮参り用の伊勢路などがあった。

七 古代においては畿内と大宰府を結ぶ最重要街道でした。

2．街道施設

①**関所**…治安維持を目的に五街道・脇街道に50カ所余り設置された。「**入鉄砲に出女**」を警戒し、通行の際は村役人などが発行する手形の提示を必要とした。主要な関所は以下の通り。［図表P. 184 1］

☆**東海道**－5＿＿＿＿・＿＿＿＿　☆**中山道**－6＿＿＿＿・＿＿＿＿

☆**甲州道中**－7＿＿＿＿　☆**日光道中・奥州道中**－8＿＿＿＿

※軍事上の理由で架橋が禁止された川も多く、人夫・舟による渡しが行われた。**大井川、天竜川**など。

②**宿駅（宿場）**…各街道に2～3里ごとに置かれた。次のような施設を備える。

＊9＿＿＿＿＿＿…人馬の手配や公用の書状の継ぎ送りを担当する。

※人馬の供出は宿駅の農民の義務であり、これを一般に10＿＿＿＿＿＿**役**とよんだ。なおかつ人馬が不足する場合にはあらかじめ指定された農村から不足分の人馬を徴発した。このような農村は11＿＿＿＿＿＿と　よばれ、このつとめを11＿＿＿＿＿＿**役**とよんだ。［P. 206④］

＊12＿＿＿＿＿＿…**大名、公家、幕府役人**の宿泊所。これを補うのが13＿＿＿＿＿＿。

＊14＿＿＿＿＿＿…食事付きの**一般庶民用**宿泊所。

＊15＿＿＿＿＿＿…自炊を旨とする**一般庶民用**宿泊所。

教科書P206. l.12 ～ P207. l.3 を読もう。
15 は日本史用語集を上手に使おう。

No.5では左半分で主に陸上交通を、右半分で主に水上交通を扱います。特に水上交通は江戸の経済にとっても重要な役割を担うものです。しっかりと基本を抑えましょう。

図表P.184 1 の「陸上交通」の部分をまず読みましょう。→次に地図をみて五街道は江戸からどこへ向かっているかを確かめましょう。

Q.「入り鉄砲に出女」とは？

図表P184の日本地図において、それぞれの街道を江戸から終点に向かってたどってみましょう。ゆっくりでいいです。すると途中、「＋」の印が出てきます。これが「関所」の印です。

次に図表P184 2 で江戸を出発、東海道を大坂に向かってみましょう。川崎の手前で土っそく「六郷の渡し」の登場です。舟のマーク（⛵）があるので舟で渡ります。さらに進みます。平塚の手前でまた舟に乗ります。（馬入の渡し）このあとすぐに「酒匂の渡し」です。ここには舟のマークはなく、口の印です。この印は舟ではなく人が渡ることを意味します。荷車で運んでもらったり

こんな台に乗せてもらったりしないといけませんでした。地図をたどっていくとそういう場所の多さに驚かされます。